

教育大綱 基本方針―1

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら
なかまとともに主体的に学ぶために」

(1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。

(2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。

(3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。

(4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

1. 学校教育目標

じぶんで なかまと ふるさとかから 夢豊かに学ぶ 関っ子
～地域の「ひと・もの・こと」にふれ、みんなでわかり、意欲的に活動する子の育成～

2. 研修主題

話したい 聞きたい 書きたい
～自分の思いを表現し、子どもの言葉で伝え合える授業づくり～

3. 研修主題設定の理由

①児童の実態

ここ数年「そろえる」を合言葉に、チャイム席などの学習規律、あいさつ、掃除などの学校生活に必要なルールの定着を目指した取り組みを進めてきたことで、子どもたちは落ちついた学習環境・生活環境のなかで生活できるようになってきた。また、学習規律をそろえたことで、子どもたちは落ち着いた環境の中で学習に取り組んでいる。一つ一つの学習課題や課題解決に意欲的に取り組む姿が見られるようになってきた。その一方で自分の考えを持っていても、発表することに自信を持てなかったり、友だちに上手く説明したりすることに苦手意識を持っている児童もいる。家庭学習や自主学習などの基礎・基本的な学習の積み重ねや自ら課題を見つけ追究することについてもまだまだ課題が残る。

さらに、ほとんどの子どもたちが幼稚園・保育園から同じ集団で過ごし、成長してきていることもあり、休み時間になると同学年だけでなく、異学年の子とも仲良く遊ぶ姿が見られる。しかし、同じ集団で過ごしてきたことにより、人間関係が固定化されており、自分に対しても友だちに対しても、これまでの見方や考え方から抜け出せない傾向がみられる。また、まわりの友だちから自分が認められているという自己肯定感が低い子どももいる。

②これまでの取組、これまでの成果・課題

昨年度から研究領域を国語・自立活動に設定し、「話したい 聞きたい 書きたい ～自分の思いを表現し、子どもの言葉で伝え合う授業づくり～」を目指して研修を進めてきた。

学習のゴールまでの見通しを持たせるため、単元でどのような力をつけるか、どのような流れで学習を進めていくかを明確にした。各単元で行う言語活動についても、見本を示すなど具体的なイメージを持たせることで学習の目的意識や必要性を感じさせることができ、主体的に学習に取り組む姿勢につながられた。また児童からの発言を復唱させたり、さらに違う言葉で表現させたりして、児童の言葉を大切にしてきた。それにより、言葉にこだわって考えを述べ、友だちの考えを聞こうとする態度を養うことができた。自分の考えをより正確に表現するために、教室内に「言葉の宝箱」を掲示し、語彙の習得を目指してきたが、活用する方法についてはより検討を深めていく必要がある。少しずつではあるが自分の考えを伝えられる子どもが育ち始めてはいるものの、まだまだ自分の考えを話す自信が持てなかったり、自分の考えを分かりやすく伝えることができなかったりする姿が見られる。引き続き、自分の思いを表現する力をつけるため、研修を進める。

4. 研究主題について

「話したい、聞きたい、書きたい」と、児童が主体的に学習に取り組み、自分の思いや考えを、自信を持って表現する姿をめざす。そして、児童が、友だちの考えを認めながら自分の考えと比べながら聞き、「子どもの言葉」で伝え合い、お互いの学びを深めたり広げたりできるような授業づくりをめざす。

【児童につけたい力】

① 自分から進んで学び、自分事として話を聞き、考える力

② 自分の考えを、適切な言葉を使って書いたり話したりして表現する力

③ 自分の考えと友だちの考えを比べながら話を聞き、考えを広げたり深めたりする力

【児童の実態】

言葉にこだわり、自分の考えやふりかえりを書く力がついてきた。一方で、伝え合うために自分の考えを表現しながら深い学びにつなげていくことについて課題が見られる。

関中学校区の
研究主題

『自他の尊厳や多様な価値観を認め、共生する児童・生徒の育成』



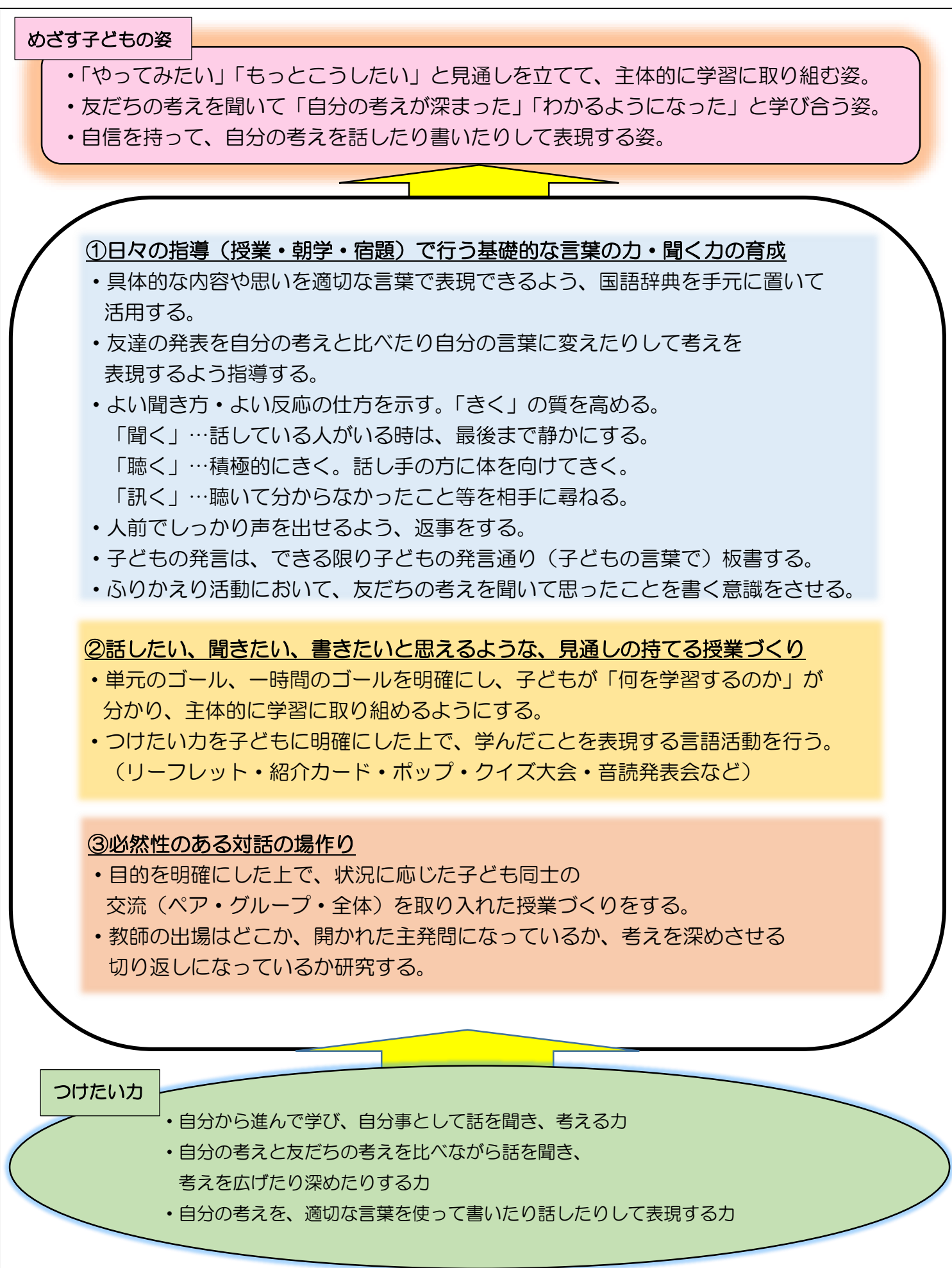
5. 研修領域

国語科（物語文）、自立活動



国語科、自立活動でつけた力を、他の教科や普段の生活でも活かし、自分の考えを伝えることの楽しさや達成感を味わわせるとともに、児童がお互いの考えを伝え合うことを通して、自分の、学びを深めたり、仲間とともに高め合ったりしていける子どもの育成をめざしたい。

6. 研究構想図



7. 具体的な取組

